

～8月24日薬害根絶デー！報告～

2017年8月24日 18日目の薬害根絶デーは、久しぶりの夏空のもと、前日集会在 HPV ワクチン被害裁判第3回期日と重なり盛りだくさんの内容でした。
全国から多くの人々が集まって、薬害根絶の思いを新たにされたのかな、と思います。
詳細なレポートとはいきませんが、参加者のことば（感想etc）を報告します。

☆前日の23日は、HPVワクチン薬害訴訟-第3回期日がありました。
今回は原告から酒井七海さんが意見陳述を行ないました。16歳の時のワクチン接種からこれまで6年間の被害の苦しみを話しました。
“22歳の私にとって6年間は人生の約1/3です。10代は周りもどんどん変わります。その中で取り残されていくことに辛さや不安を感じることも何度もありました。”
☆かけがえの無い、10代の半分を心身ともに深刻な被害に遭い、しかも周りが無理解というか、理解しようとしないう状況は、ほんとうに辛いだろうなと思いました。

☆【根絶の碑】…命の尊さを、心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する、千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件このような事件の発生を反省しこの碑を建立した。 平成11年8月 厚生省

☆これは、厚労省の前庭に建立された「根絶の碑」に刻まれている文章です。
“この碑に刻まれた薬害根絶の誓いを、しっかり心に刻んで、薬の安全性を追求し、国民の命を守る仕事をして欲しい”このリレートークの訴えに-本当にそう!-と。

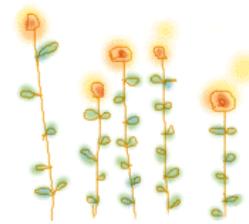


23日前日集会

☆民医連学習交流会 「HPVワクチン薬害訴訟」 水口真寿美 弁護士
訴訟における因果関係・自然科学的な因果関係と異なり、全証拠を総合して、高度の蓋然性が証明できればよい
つまり、発症機序の証明は不要、統計学的証明は不要
そして本件は、①副反応症状に共通の特徴 ②既存疾患では説明しきれない病態 ③HPV ワクチン接種後の発現 ④海外でも同様の症状 ⑤医学的知見によって説明可能 ⑥他の考え得る原因の不存在・これらの法的因果関係がある。
☆高度の蓋然性?!…難しい言葉だけど、すごく大事なことです。被害が増大して、誰の目にも明らかになってからでは遅すぎだから！

☆碑の前行動 : HPV ワクチン被害の少女の訴え。直接大臣に向けられた言葉は…
“私がこんな身体になって、お母さんがどこかに行ってしまった。一緒にお母さんを捜してください” 車椅子の彼女の傍には彼女の母がより添っているのに。
☆えっ何を言っているの?…これが記憶障害と言われても、信じられない思いが正直あります。もともと親子関係に原因あるのかな?とも。でも、これも被害の事実です。
ワクチン接種は思春期に重なります。その頃の母娘はいろいろあるもので、いつしか修復されていくものだったりします。彼女が受けた高次機能障害が、その修復の機会を奪ったのだとしたら、心が折れてしまいそうに辛いことだと思いました。

☆「HPV ワクチン被害者の方々に、まず、お詫びしたい。薬害肝炎訴訟では、二度と薬害をおこさせないために、第三者による監視組織の設立を約束させたが、未だ果たされてない。しっかり設立させていたら、HPV ワクチン被害は防げたのではないかと」
☆薬害肝炎元原告の方の発言です。「まずお詫びしたい」だなんて…
過去の薬害被害者が、こんな思いをしないように、薬害根絶にきちんと取り組んでいかないと、と思いました。
☆☆また次号でも感想ほど載せていきたいと思えます☆☆



碑の前行動

注目! の ご案内です・

- ☆HPV ワクチン東京訴訟支援ネットワーク・設立総会のご案内
- *日時: 2017年10月21日(土) 14:30
- *場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター・国際交流棟-国際会議室

被害を受けた少女たちは、通学や就労が困難となり将来の見通しが立ちません。過去の薬害訴訟と同じように、いま彼女たちは市民からの支援を必要としています。
各地で支援組織ができつつあるなか、東京でも「HPV ワクチン東京訴訟支援ネットワーク」を立ち上げることとしました。
ご家族、お仲間をお誘い合わせの上、ぜひとも 設立総会にご参集ください。
HPV ワクチン東京訴訟支援ネットワークより

支援ネットワークニュースも発行中 「薬害根絶デー書庫」から入手できます。SNSで拡散して、支援の輪を広げていただけると、とっても嬉しいです。

